

Title	高村象平名誉教授年譜
Sub Title	A chronology of Prof. Shohei Takamura
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1971
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.64, No.8 (1971. 8) ,p.776(262)- 778(264)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	高村象平教授退任記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19710801-0262

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

高村象平名誉教授年譜

- 明治38年8月2日 東京市本所区小梅瓦町47番地(現在東京都墨田区押上1-1-2)において高村国策(長野県更埴市稲荷山町出身)と、はな(旧姓久保, 実家は東京都文京区本郷2丁目)の長男として出生
- 明治44年 本郷区東竹町7番地(現在文京区本郷2-7-1)に転居
- 明治45年4月 東京市立真砂尋常小学校に入学
- 明治45年7月 東京市立元町尋常小学校の新築成り, 転学
- 大正7年3月 同校卒業
- 大正7年4月 東京開成中学校入学
- 大正12年3月 同校卒業
- 大正12年4月 慶応義塾大学経済学部予科に入学
- 大正12年9月 関東大震災により自宅焼失し, 天現寺の慶応義塾寄宿舎に入寮
- 大正15年4月 経済学部本科に進み, 寄宿舎を退寮, 本郷の旧宅跡に居住
- 大正15年9月 母はなは, 大震災後居を移した長野県更級郡稲荷山町にて急逝
- 昭和4年3月 慶応義塾大学経済学部卒業。卒業論文は「クライミング・ボーイ研究——英蘭児童労働史の一齣」を故野村兼太郎教授に提出
- 昭和4年4月 慶応義塾大学経済学部助手となる。爾後3年余の間イギリス児童労働史, ついで歴史哲学を研究課題とし, 昭和7年秋よりドイツ・ハンザの研究に移る
- 昭和5年4月 経済学部予科講師(昭和10年3月まで予科3年の経済原論を担当)。
- 昭和5年より10年に至る間 ビグウ著厚生経済学第3版を同僚の故小島栄次・故小高泰雄両君と翻訳に従事
- 昭和8年4月 浅田薫(東京市牛込区富久町浅田良逸三女)と結婚
- 昭和10年3月 経済史研究のため義塾より欧米に派遣。往航は故小高泰雄君や北里研究所員滝田順吾君と同船
- 昭和10年11月 ベルリン大学においてフリッツ・レーリヒ教授に師事。翌11年4月ミュンヘン大学のヤコブ・シュトリーダー教授に就き, 同年11月再度ベルリン大学にてレーリヒ教授の薫陶を受く。この間ベルリン・オリンピック開催
- 昭和11年 ハンザ史学会及び経済史学会(イギリス)の終身会員となる
- 昭和12年3月 アメリカ合衆国を経由して帰国。帰航も故小高泰雄君と同船
- 昭和12年4月 慶大経済学部助教授(近世経済史, 研究会担当)
- 昭和12年12月 長男誠一出生
- 昭和14年4月 慶大経済学部教授(一般経済史, 古代中世経済史, 英語及び独語経済学講読, 研究会担当)
- 昭和14年10月 鎌倉市長谷大谷戸1395に転居
- 昭和16年4月 社会経済史学会編集委員(昭和19年12月まで)
- 昭和16年8月 長女信子出生
- 昭和17年4月 慶応義塾経済史学会副会長(昭和21年まで)
- 昭和18年5月 社会経済史学会理事(昭和45年12月まで)。昭和46年1月同学会顧問(現在)
- 昭和18年9月 横浜商工会議所史編集事務嘱託(昭和20年4月まで)
- 昭和20年2月 父国策は長野県更級郡稲荷山町にて死去
- 昭和20年3月 空襲により東京都本郷区本郷1丁目の家屋焼失
- 昭和20年4月 学術研究会議第16部第7研究班員として近世初期以降第一次世界大戦前に至る欧州時経済

高村象平名誉教授年譜

- 及び戦後経営の概観につき研究を委嘱さる(昭和21年3月まで)
- 昭和23年6月 土地制度史学会理事(昭和38年9月まで), 昭和38年10月同学会評議員(昭和40年10月まで)
- 昭和24年4月 中央労働学園大学社会学部講師(経済史担当, 昭和26年8月まで)
- 昭和24年4月 近世庶民史料調査委員会委員(昭和28年3月まで)
- 昭和25年9月 北海道大学法経学部講師(西洋経済史担当, 昭和26年3月まで)
- 昭和25年11月 地方史研究協議会常任委員(昭和29年10月まで)
- 昭和26年4月 慶大大学院経済学研究科教授並びに文学研究科教授兼任(西洋経済史特殊研究, 演習担当, 昭和46年3月まで)
- 昭和26年4月 東京大学経済学部講師(西洋中世経済史担当, 昭和26年9月まで)
- 昭和26年5月 林野庁林業発達史調査会編集委員長(昭和30年10月まで)
- 昭和26年7月 文部省史料館専門員(昭和35年7月まで)
- 昭和26年8月 日本歴史学協会委員(昭和29年3月まで)
- 昭和27年8月 茅ヶ崎市茅ヶ崎12495(現在中海岸4-12-45)に転居
- 昭和28年4月 早稲田大学大学院経済学研究科講師(当初アメリカ経済史及びドイツ経済史担当, その後西洋経済史特論担当, 現任)
- 昭和28年4月 青山学院大学大学院経済学研究科講師(経済史特論及び商業史特論担当, 昭和35年8月まで)
- 昭和28年11月 「ドイツ・ハンザ研究」により慶応義塾賞を受く
- 昭和29年5月 日本塩業協会日本塩業史編纂主任(昭和33年3月まで)
- 昭和30年11月 慶大経済学部長及び大学院経済学研究科委員長。慶応義塾経済学会会長を兼任(昭和32年9月まで)
- 昭和32, 34, 36, 38, 40年度 新潟大学人文学部講師(外国経済史担当)
- 昭和33年4月 慶応義塾図書館長兼任(昭和35年7月まで)
- 昭和33年5月 農林省林業試験場研究顧問(昭和33年7月まで)
- 昭和33年6月 文部省教科用図書検定調査審議会委員(昭和36年10月まで)
- 昭和33年6月 文部省民間学術研究機関助成協議会委員(昭和35年5月まで)
- 昭和34年4月 文部省学術奨励審議会委員(昭和36年3月まで)
- 昭和35年3月 学位請求論文「ドイツ・ハンザの研究」により経済学博士の学位を受く
- 昭和35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42年度 外務省公務員採用上級試験委員
- 昭和35年6月 慶応義塾長(学校法人慶応義塾理事長)兼慶応義塾大学長(昭和40年4月まで)
- 昭和35年7月 財団法人日本科学技術振興財団理事(昭和40年6月まで)
- 昭和35年11月 日本育英会評議員(昭和43年11月まで)
- 昭和36年2月 社団法人日本私立大学連盟会長(昭和40年5月まで)
- 昭和36年3月 長男誠一岐阜大学農学部林学科卒業, 東海バルブ株式会社に就職
- 昭和36年4月 文部省学徒厚生審議会委員(昭和38年4月まで)
- 昭和36年4月 文部省大学基準等研究協議会委員(昭和40年3月まで)
- 昭和36年5月 財団法人大学基準協会理事(現任), 昭和40年4月同協会副会長(現任)
- 昭和36年7月 文部省学校法人運営調査会委員(昭和38年6月まで)
- 昭和37年9月 文化勲章受章者選考委員, 文化功労者選考審査会委員
- 昭和37年10月 文部省大学設置審議会委員(昭和44年4月まで)
- 昭和37年10月 国際大学協会第4回総会東京組織委員会委員(昭和40年5月まで)
- 昭和37年10月 財団法人東洋文庫評議員(昭和40年5月まで)
- 昭和38年5月 文部省中央教育審議会委員(昭和44年6月まで)
- 昭和38年9月 財団法人松永記念科学振興財団評議員(現任)
- 昭和38年9月 第二回日米文化教育合同会議日本側代表の一員として渡米(昭和38年11月まで)

高村象平名誉教授年譜

- 昭和38年11月 財団法人学徒援護会評議員 (現任)
- 昭和39年2月 財団法人日本学術振興会評議員 (昭和42年3月まで)
- 昭和39年2月 財団法人交詢社常議員 (現任)
- 昭和39年3月 長女信子慶大文学部国文学専攻卒業
- 昭和39年4月 財団法人大学セミナーハウス理事, 昭和43年6月同法人評議員会議長, 昭和45年4月同法人理事長 (昭和46年5月まで)
- 昭和39年5月 財団法人能力開発研究所評議員 (昭和41年9月まで)
- 昭和39年6月 財団法人アメリカ研究振興会理事 (現任)
- 昭和39年8月 1967年ユニバーシアード大会招致委員会委員 (昭和40年5月まで)
- 昭和39年8月 財団法人サンケイ・スカラシップ副会長 (昭和40年5月まで)
- 昭和39年9月 日本国連協会神奈川県本部理事 (昭和40年5月まで)
- 昭和39年10月 読売新聞育英奨学会理事 (昭和40年5月まで)
- 昭和39年10月 財団法人全国大学保健管理協会理事 (昭和40年6月まで)
- 昭和39年11月 文部省私立大学審議会長 (昭和41年11月まで)
- 昭和39年11月 財団法人福沢記念育林会理事長 (現任)
- 昭和39年12月 全国大学教授連合会会長 (昭和45年6月まで)
- 昭和40年6月 慶応義塾学事顧問 (現任)
- 昭和40年6月 財団法人松永記念館理事 (現任)
- 昭和40年6月 文部省大学学術局経済学商学視学委員会委員長 (現任)
- 昭和40年6月 財団法人三井文庫評議員 (現任)
- 昭和40年6月 財団法人日伊協会評議員 (現任)
- 昭和40年11月 慶大言語文化研究所所員兼任 (昭和46年3月まで)
- 昭和40年11月 千代田生命保険相互会社社員総代 (現任)
- 昭和40年12月 財団法人日本生産性本部経営アカデミー運営委員会委員 (昭和44年11月まで)
- 昭和40年12月 財団法人古河記念基金評議員 (現任)
- 昭和41年1月 アメリカ学会評議員 (現任)
- 昭和41年5月 財団法人慶応がんセンター評議員 (現任)
- 昭和41年6月 財団法人海事産業研究所評議員 (現在)
- 昭和42年3月 日本古文書学会評議員 (現任)
- 昭和43年5月 長男誠一は多根光佐子 (島根県八東郡宍道町多根一義次女, 慶大文学部社会学専攻卒業) と結婚。
- 昭和43年10月 神奈川県教育委員会委員, 昭和45年10月同委員長職務代理者 (現任)
- 昭和43年11月 大学問題懇談会委員 (現任)
- 昭和44年1月 神奈川県美術展委員会委員長 (現任)
- 昭和44年9月 学校法人開成学園理事 (現任)
- 昭和44年10月 金沢大学法文学部講師 (西洋経済史担当, 現任)
- 昭和44年10月 長女信子は伊藤直明 (東京都立大学工学部建築学科助教授) に嫁す
- 昭和45年4月 大阪学院大学大学院商学研究科客員教授 (経済史特殊研究担当, 現任)
- 昭和45年4月 学校法人北里学園理事 (現任)
- 昭和45年4月 神奈川県史編集委員会委員 (現任)
- 昭和45年7月 財団法人神奈川県美術奨学会理事 (現任)
- 昭和46年1月 講書始の儀において「ドイツ・ハンザの経済史的意義」を進講
- 昭和46年4月 慶応義塾大学名誉教授
- 昭和46年4月 慶大大学院経済学研究科講師 (西洋経済史特殊研究, 演習担当, 現任)

以上

高村象平名誉教授著作目録*

著 書

- 「資本主義第三期」世界経済問題講座 第1部世界経済総論 春秋社 昭和8年
- 「西洋経済史」慶応義塾大学講座経済学 慶応出版社 昭和13年
- 「近代技術史」 慶応出版社 昭和15年
- 「日葡交通史」 国際交通文化協会 昭和17年
- 「一般経済史」慶応義塾大学講座経済学 慶応出版社 昭和19年
- 「一般経済史 古代・中世」 慶応出版社 昭和23年
- 「資本主義の歴史的問題」 泉文堂 昭和23年
- 「一般経済史」慶応義塾大学通信教育教材 第1～3分冊 昭和23年, 第4～6分冊 昭和24年
- 「経済史随想」 塙書房 昭和26年
- 「アメリカ資本主義発達史——商業資本の展開と産業資本の確立——」 金星堂 昭和27年
- 「西洋経済史」 (有斐閣全書) 昭和29年, 新版 昭和46年
- 「一般経済史」 慶応通信 昭和32年
- 「ドイツ中世都市」 一条書店 昭和34年
- 「ドイツ・ハンザの研究」慶応義塾経済学会経済学研究叢書第1冊 日本評論新社 昭和34年
- 「五年のあしあと」 慶応通信 昭和40年

共 書

- 「日本における経済史学の発達」 (小松芳喬氏と共著) 人文科学委員会編 人文科学研究叢書第2編 要書房 昭和24年
- 「西洋経済史 上巻」 (増田四郎・宮下孝吉・小松芳喬・五島茂氏と共著) 有斐閣 昭和30年
- 「封建制と資本制」 (野村博士還暦記念論文集), (小松芳喬氏他と共編) 有斐閣 昭和31年
- 「社会経済史大系 全10巻」 (増田四郎・小松芳喬・矢口孝次郎氏と共編) 弘文堂 昭和35年
- 「西洋経済史」 (経済学全集3) (小松芳喬氏と共編) 世界書院 昭和40年

編 纂

- 「日本塩業史」 (正・続2巻) 日本専売公社 昭和33年
- 「日本林業発達史 上巻 ——明治以降の展開過程——」 林野庁 昭和35年

訳 書

- 「ビグウ 厚生経済学」 第1分冊 (小島栄次氏と共訳) 高原書店 昭和9年
- 「アンリ・ピレンヌ 中世ヨーロッパ経済史」 (増田四郎・小松芳喬・松田智雄・高橋幸八郎・五島茂氏と共訳) 一条書店 昭和31年

* 論文のうち, そののち著書に再録されたものは, このリストから除外してある。